

“方便”について

中 村 浩 一

On a word '*fangbian* (方便)'

Koichi Nakamura

要旨

ことばの意味の移り変わりをしてみると、大きく変化するものとあまり変化しないものがあるが、“方便”は前者に属する。現代中国語の“方便”の成立過程を明らかにするために、『水滸』から『金瓶梅』、『紅樓夢』、『兒女英雄傳』をたどり、現代中国語までの意味の変遷を探ったが、その結果“方便”の意味範囲は『水滸』から『金瓶梅』『紅樓夢』の変遷期をへて現代中国語へまったく違ったものに変化したことがあきらかになった。

はじめに

ことばの意味の移り変わりをしてみると、大きく変化するものとあまり変化しないものがある。ここにとりあげる“方便”はその意味が大きく変化したことばのひとつである。

“方便”は『維摩詰經』等の仏典にもみえる古いことばであるが、本稿では現代中国語の“方便”の成立過程を明らかにするために、『水滸』から『金瓶梅』、『紅樓夢』、『兒女英雄傳』をたどり、現代中国語までの意味の変遷を探ってみたい。

『現代漢語詞典』（以下『現漢』と略す）は“方便”について次のように説明している。

1. (形) 便利である。大開～之門。北京的交通很～。把～讓給人家，把困難留給自己。
2. (動) 便利にする。便宜を与える。～群眾 3. 適切である。都合がいい。這兒說話不～。～的時候，你給我回個電話。4. 婉曲的な言い方で“手頭兒”とともに用いてお金に余裕があるという意味をあらわす。手頭兒不～。5. 婉曲的な言い方で用便をするの意味。車停一會兒，大家可以～。

以下、『現漢』の意味を軸にして“方便”の意味を見てみたい。

1 『水滸』における“方便”

『水滸』には『現漢』にみられる意味で用いられる用例はない。『水滸』における“方便”の意味を整理すると次のようになる。

1. 体裁がいい、よい

①董超道：“却怕使不的。開封府公文只叫解活的去，却不曾教結果了他。亦且本人年紀又不高大，如何作的這緣故？倘有些兜答，恐不方便。”（水滸・8・128「第8回128頁」以下同じ）

この“方便”は現代中国語の“體面”にあたり、“不”をとまなうので“不體面”（体裁が悪い、まずい）という意味になる。用例はこの例のみ。

2. 面倒をみる。優遇する。助ける。

これは現代中国語の“照顧”、“幫助”にあたるものである。

①滿縣人見說拿得宋江，誰不愛惜他，都替他去知縣處告說討饒，備說宋江平日的好處。“亦且閻婆惜家又沒了苦主，只是相公方便他則個。”（水滸・36・564）

②府尹道：“據你說時，林冲事怎的方便他，施行斷遣？”（水滸・8・124）

①②の“方便”は罰すべき者に対し、「手心を加える、助ける」意味である。

③莊客道：“來俺莊上有甚事？”王進答道：“實不相瞞，小人子母二人，貪行了些路程，錯過了宿店。來到這裡，前不巴村，後不巴店，欲投貴莊借宿一宵，明日早行。依例拜納房金。萬望周全方便。”

④小人是牢城營差使人，被雪打濕了衣裳，借此火烘一烘，望乞方便。”莊客道：“你自烘便了，何妨得。”（水滸・10・157）

⑤莊客道：“既是如此，且等一等，待我去問莊主太公，肯時，但歇不妨。”王進又道：“大哥方便。”

③④は窮状を助けてくれるように求めている場面であるので“方便”は“照顧”、“幫助”である。⑤は「兄さん宜しくお願いします。」という意味で挨拶の文句に近いが、本来の意味は「兄さん、助けてください。」ということであるので、やはり“照顧”、“幫助”の意味。

⑥數中一個看着老都管道：“老爺爺，與我們說一聲。那賣棗子的客人買他一桶喫了，我們鬪亂也買他這桶喫，潤一潤喉也好。其實熱渴了，沒奈何，這裡岡子上又沒討水喫處。老爺方便！”（水滸・16・235）

⑥はのどが渴いているので近くに売っている酒を買ってくれるように求めている場面であるが、これも“照顧”（面倒をみる）という意味から出ている。

⑦王慶又把那見怪閃肭的事，細稟一遍道：“實是腰肋疼痛，坐卧不寧，行走不動，非敢怠玩，望相公方便。”（水滸・102・1577）

⑧薛霸罵道：“走便快走，不走便大棍搦將起來。”林冲道：“上下方便，小人豈敢怠慢，俄延程途，其實是脚疼走不動。”（水滸・8・129）

⑦⑧は罰に手心を加えてもらいたいと願っている場面であるので“照顧”である。

⑨那公人先去對管營差撥處，替宋江說了方便，交割討了收管，自回江州府去了。（水滸・37・590）

“説”とともに用いられ「とりなす」の意味である。“説方便”は「面倒を見るように言う」という意味から出ていると見られ、ここの“方便”も“照顧”、“幫助”である。

⑩當下把王慶大罵道：“大膽的奴才！你是箇囚徒，本該差你挑水搬石，或鎖禁在大鏈子上。今日差遣你奔走，是十分抬舉你。你這賊骨頭，却是不知好歹！”罵得王慶頓口無言，插燭也似磕頭求方便。（水滸・103・1586）

⑩は「許しを請う」という意味であるが、この“方便”も“照顧”（面倒を見る、助ける）から出ていると思われる。

3. 方法、手段

①人問他求錢物，亦不推託。且好做方便，每每排難解紛，只是周全人性命。（水滸・18・260）

②節級哥哥怎地做個方便，便是重生父母，再長爺娘！”（水滸・62・1049）

③燕青聽的，便去拜告李師師道：“姐姐做箇方便，今夜教小弟得見聖顏，告的紙禦筆赦書，赦了小弟罪犯，出自姐姐之德。”（水滸・81・1339）

④那人道：“我有十兩金子，送與姐姐打些釵釵。老娘怎地做箇方便，教他和我厮會則箇。”（水滸・65・1110）

⑤朱全道：“老娘，自請放心歸去。今後飯食不必來送，小人自管待他。倘有方便處，可以救之。”（水滸・51・843）

①～④は“做”をとめない「方法を考える」という意味。したがって“方便”は“辦法”である。

4. 機会

①施禮罷，知府把了盞，將些言語囑付總管道：“善觀方便，早奏凱歌。”賞軍已罷，放起信炮。（水滸・34・533）

②張清道：“再搶河中糧船。”太守道：“將軍善觀方便。”（水滸・70・1187）

③童貫道：“天色將晚，你可善觀方便，疾去早來。”（水滸・77・1286）

④戴宗道：“你當速去，善觀方便，早幹了事便回，休教我久等。宿太尉的書，也等你來下。”（水滸・81・1339）

⑤燕青又勸貫忠道：“兄長恁般才略，同小弟到京師觀個方便，討個出身。”（水滸・90・1473）

⑥在下頗知些拳棒，待後觀個方便，就在本州討個出身。”（水滸・104・1596）

“善觀方便”もしくは“觀方便”というように“觀”という動詞とともに用いられる。「チャンスをうかがう」の意味である。

以上見たように『水滸』の“方便”の意味は現代中国語の意義項目を持っていない。ただ、『現漢』にみられる「用便する」の用例は次のように『古今小説』にみられるので、明代にはすでにそのような意味で用いられていたようである。

走了幾步，又里急起來，觀個毛坑上自在方便了，慢慢的望東門而去。（古今・40・627）

2. 『金瓶梅』における“方便”

『金瓶梅』には『現漢』と異なる意味で用いられる例が多いが、同じ意味で用いられる例も見られる。

『現漢』と同じ意味で用いられるものには次のようなものがある。

1. 便利である。

①容日奉拜請教。寒家就在對門收拾一所書院，與老先生居住，連寶眷多搬來一處方便。（金瓶・58・768）

②大妗子道：“咱這裏少不的立上個媒人，往來方便些。”（金瓶・42・522）

③春梅道：“咱這裏買一個十三四歲丫頭子，與他房裏使喚，掇桶子倒水方便些。”（金瓶・97・1446）

④西門慶道：“等韓夥計來家，你和他計較，等子獅子街那裏，替你破幾兩銀子，買下房子。等你兩口子，亦發搬到那裏住去罷。鋪子裏又近，買東西諸事方便。”（金瓶・38・472）

以下は否定詞“不”と結んで「不便である」の意味をあらわす。

⑤婦人道：“不瞞爹說，自從俺家女兒去了，凡事不方便。那時有他在家，如今少不的奴自己動手。”（金瓶・37・464）

⑥今早來衙門裏來，旋拿帖兒問舍親借了這匹馬騎來了，甚是不方便。（金瓶・38・474）

⑦常時節道：“實爲住的房子不方便，待要尋間房子安身，却没有銀子，因此要求哥周濟些兒。日後少不的加些利錢，送還哥哥。”（金瓶・55・727）

⑧你休要信着人，使那慳錢，將就使十來兩銀子，買副熟料材兒，把我埋在先頭大娘墳旁，只休把我燒化了，就是夫妻之情。早晚我就搶些漿水，也方便些。（金瓶・62・845）

2. (体の) 具合がよい

①那李瓶兒在房中，身上不方便，請了半日，才請了來。恰似風兒颳倒的一般，強打着精神，陪西門慶坐。（金瓶・61・821）

②正說着，見玉樓和惠蓮出來，向金蓮說道：“大娘因身上不方便，大姐不自在，故不去了。教娘們走走，早些來家。…”（金瓶・24・285）

この場合は必ず“身上不方便”というかたちで現れ、「体の具合が悪い」という意味になる。また、「体の具合が悪い」という意味から「妊娠する」の婉曲表現として用いられる。

③大娘等，你也少要虧了他的。他身上不方便，早晚替你生下個根絆兒，庶不散了你家事。（金瓶・62・854）

④李嬌兒道：“你又身上不方便，早知不上樓也罷了。”（金瓶・33・404）

⑤大妗子便勸往月娘，只說道：“姑娘，你身上又不方便，好惹氣，分明沒要緊。你姊妹們歡歡喜喜，俺每在這裏住着有光。（金瓶・75・1108）

⑥走到上房，一把手把月娘拉起來，說道：“你甚要緊，自身上不方便，理那小淫婦兒做甚麼，平白和他合甚麼氣？”（金瓶・75・1110）

『現漢』にない意味で用いられるものに次のようなものがある。

1. 体裁がいい、よい

①那日，西門慶因上房有吳大妗子在這裏，不方便，走到前邊李瓶兒房中看官哥兒，心裏要在李

瓶兒房裏睡。(金瓶・33・397)

②王六兒道：“平白又叫甚麼唱的，只怕他酒後要來這屋裏坐坐，不方便。隔壁樂三嫂家常走一個女兒申二姐，年紀小小兒的，…(金瓶・61・813)

③欲要自家出來尋着他，又有許多丫頭往來，不方便。日裏便似熬盤上蟻子一般，跑進跑出，再不坐在屋裏。(金瓶・55・725)

④李瓶兒不肯，說道：“沒的這屋里齷齪齷齪的，他每都在這裏，不方便，你往別處睡去罷。”(金瓶・62・847)

これらは現代中国語の“不體面”(体裁が悪い)にあたる。また、次のように“沒個方便”の形であらわれる場合がある。

⑤因恐怕西門慶出來撞見，連那算帳的事情也不吆呼，兩只眼又像老鼠兒見了貓來，左顧右盼，提防着，又沒個方便，一溜煙自出去了。(金瓶・57・756)

2. 面倒をみる。助ける。

現代中国語の“照顧”、“幫助”にあたるものである。

①今日他無親人領去，小夫人豈肯不葬埋他。咱每若替他幹得此事停當，早晚他在老爺跟前，只方便你我，就是一點福星。(金瓶・88・1320)

②因此，張宅家下人個個都歡喜，在大戶面時，一力與他說方便。因此，大戶連房錢也不問武大要。(金瓶・1・9)

③婦人嘗與他浸潤，他有甚不是，在西門慶面前替他說方便。以此婦人往來就滑。(金瓶・8・84)

④衆人只待斟酒，伯爵跪着西門慶道：“還求大哥說個方便，饒恕小人窮性命，還要留他陪客。…(金瓶・54・710)

⑤一面走入房中，哭啼哀告春梅：“望乞奶奶在爺前方便一言。不然，爺要見責小的每哩。”(金瓶・94・1402)

⑥李瓶兒道：“也是你老大個陰鷲！你做這刑名官，早晚公門中與人行些方便兒，別的不打緊，只積你這點孩兒罷！”(金瓶・34・421)

⑦交人盼得眼睛穿。冤家怎不行方便？(金瓶・49・624)

⑧這花娘遂羞訕滿面而回。正是：廣行方便，爲人何處不相逢；多結冤仇，路逢狹處難回避。(金瓶・12・136)

⑨爲人一生有仁義，性格寬洪，心慈好善，看經布施，廣行方便。一生操持，把家做活，替人頂缸受氣，還不道是。(金瓶・46・586)

⑩書寄應哥前：別來思不待言。滿門兒託賴都康健。舍字在邊，傍立着官，有時一定求方便。(金瓶・56・741)

⑥～⑩では“方便”が名詞として用いられるが意味は“照顧”である。

3. 都合のいいようにする

現代中国語の“自便”にあたる。

①那婦人應道：“你看那不曉事的！叔叔在此，無人陪侍，却交我撇了下去。”武松道：“嫂嫂請方便。”（金瓶・1・14）

②這婦人情知不是，叉手望他深深拜了一拜，說道：“奴家一時被風失手悞中，官人休怪！”那人一面把手整頭巾，一面把腰曲着地還喏道：“不妨，娘子請方便！”（金瓶・2・25）？

4. 方法、手段

①乃于三生之前，曾置毒藥，殺害他命。此冤家不曾離于前後，欲求方便，致殺其母，遂以託蔭此身。（金瓶・59・797）

②母思憶之，痛切號哭，遂即把他孩兒拋向水中。如是三遍，託蔭此身，向母腹中，欲求方便，致殺其母。（金瓶・59・797）

5. 安全である

“不”をともない「危ない」という意味になる。用例はこの1例のみ。

①小的見來安一個跟着轎子，又小，只怕來晚了，路上不方便，須得個大的兒來接才好；（金瓶・34・422）

6. 便宜、利益

①這來昭道：“也罷，與人方便，自己方便，你少待片時，等我進去。…”（金瓶・91・1354）

7. 機会

①王六兒、韓道國上來也陪喫了幾杯，各取方便下樓去了，教他二人自在喫幾杯，叙些闊別話兒。（金瓶・99・1464）

“取方便”で「機会をみる」という意味になる。

3. 『紅樓夢』における“方便”

『紅樓夢』では『現漢』と同じものと、異なったものが見られるが『金瓶梅』に比べてその同じ意義項目は多くなる。

『現漢』と同じ意味に用いられるものには次のようなものがある。

1. 便利である。

①原來近日賈母說孫女兒們太多了，一處擠着倒不方便，只留寶玉黛玉二人這邊解悶，却將迎、探、惜三人移到王夫人這邊房後三間小抱厦內居住，令李紈陪伴照管。（紅樓・7・110）

②平兒笑道：“我原没事的。二奶奶打發了我來，一則說話，二則恐這裏人不方便，原是叫我幫着妹妹們伏侍奶奶姑娘的。”（紅樓・55・776）

2. 便宜を図る。

①說起根由雖近荒唐，細按則深有趣味。待在下將此來歷注明，方便閱者了然不惑。（紅樓・1・1）

3. 用便する

①鴛鴦只當他和別的女孩子也在此方便，見自己來了，故意藏躲恐嚇着耍，因便笑叫道：“…（紅

樓・71・1015)

『現漢』にない意味で用いられるものに次のようなものがある。

1. 体裁がいい、よい

①鳳姐又悄悄的道：“大天白日，人來人往，你就在這裏也不方便。你且去，等着晚上起了更你來，悄悄的在西邊穿堂兒等我。(紅樓・12・167)

②有那尚排場有錢勢的，只說這裏不方便，一定另外或村莊或尼庵尋個下處，爲事畢宴退之所。(紅樓・15・203)

③即今秦氏之喪，族中諸人皆權在鐵檻寺下榻，獨有鳳姐嫌不方便，因而早遣人來和饅頭關的姑子淨虛說了，…(紅樓・15・203)

④雖說是姊妹們，到底是男女之分，日夜一處起坐不方便，由不得叫人懸心，便是外人看着也不像。(紅樓・34・467)

2. 面倒を見る。助ける

①但還有一件，老太太、太太們跟前嬪子還要周全方便，別提這些話方好。(紅樓・68・971)

②只求姐姐在二爺跟前替我好言方便方便，容我一席之地安身，奴死也願意。(紅樓・68・964)

③竟大開方便之恩，特降諭諸椒房貴戚，除二六日入宮之恩外，凡有重宇別院之家，可以駐蹕關防之處，不妨啟請內廷鸞輿入其私第，庶可略盡骨肉私情、天倫中之至性。(紅樓・16・216)

3. 快適である（“舒適”）

①探春因家務冗雜，且不時有趙姨娘與賈環來嘈聒，甚不方便；惜春處房屋狹小；(紅樓・58・818)

“不”をともない「不快である」。

4. 楽しみ（“快樂”）

①這裡有三兩個婆子，都是不關痛癢的，見李嬪走了，也都悄悄去尋方便去了。(紅樓・8・129)

“尋方便”は「楽しみを求める。やりたいことをする」の意味である。

4. 『兒女英雄伝』における“方便”

『現漢』と同じ意味に用いられるものには次のようなものがある。

1. 便利である。

①他假作斯文一派，走到跟前，打着問訊，說道：“施主辛苦了。這裏不潔淨，一位罷咧，請到禪堂裏歇罷。那裏諸事方便，也嚴緊些。”(兒女・5・21)

②我費了這麼幾天的事，纔給你老人家拾掇出這個地方兒來。那邊廂房裏就是我合女婿住着。這又有什麼不方便的呢？(兒女・39・33)

③幸喜得他家莊上有個大馬圈，另開車門，出入方便。(兒女・21・35)

④一路行則分轍，住則異室，也沒什麼不方便的去處。(兒女・10・5)

⑤這日早上便推說是晚間要換換衣裳，那邊新房裏一通連沒個回避的地方，不大方便，…(兒女・31・11)

⑥我們方纔在外頭商量定了，你此番扶柩回京，早路斷不方便，就是你也不得早晚相依。（兒女・20・18）

⑦爲的是上了路隨身帶着，上車下店，使着方便。事有湊巧，恰恰的這麼個當兒，隨緣媳婦給他送了來；（兒女・40・46）

2. 用便する

①張金鳳見了，這纔忙忙的袖手進去解下裙子，退了中衣，用外面長衣蓋嚴，然後蹲下去鴉雀無聲的小解。一時完事，因向十三妹道：“姐姐不方便方便麼？”（兒女・9・13）

②誰想恰好程相公也在那裏悄悄兒的問劉住兒說：“那裏好出大恭？我也去。”老爺聽說，便道：“索性請師爺也方便了來罷。我借此歇歇兒也好。”（兒女・38・42）

『現漢』にない意味で用いられるものに次のようなものがある。

1. 面倒をみる、助ける（“照顧”“幫助”）

①安老爺、安太太是第一肯作方便事的，便作主給他留下，一舉兩得，又成全了一家人家，正叫作“勿以善小而不爲”。（兒女・32・39）

②我原無心要他的性命，怎奈他一個個自來送死。也是他們惡貫滿盈，莫如叫他早把這口氣還了太空，早變個披毛戴角的畜生，倒也是法門的方便。（兒女・8・22）

2. 楽になる

①這邊張姑娘便讓新人方便，自己服侍他卸了妝，便喫着袋煙，同他坐在床沿上合他談心；談了幾句，悄悄的在他耳邊又不知說些甚麼。（兒女・28・21）

3. 楽しみ（“快樂”）

①那日，正逢他晚餐已過，酒醉飯飽，有些醺然，跟班也去自取方便。（兒女・35・15）

②他便對鄧九公說：“九兄，這事情的大局已定，我們外面歇歇，好讓他娘兒們說說話兒，各取方便。”（兒女・20・14）

③飯罷，大家盥漱，煙茶各取方便，仍到裏間來坐。（兒女・27・24）

“取方便”は「楽しみを求める。やりたいことをする」の意味である。

おわりに

“方便”の意味について『水滸』から『兒女英雄傳』まで見てきた。作品別に意義項目を別表で示す。○のついているところはその用例が見られることをあらわす。

この表から次のことが指摘できる。

1. “不”をともない“不體面”「体裁が悪い」という意味は『水滸』から『紅樓夢』まで見られるが、『兒女英雄傳』『現漢』にはみられない。

2. 「面倒をみる」という意味は『水滸』から『兒女英雄傳』までみられるが、『現漢』にはみられない。

3. 「方法」「機会」という意味は『水滸』『金瓶梅』にはみられるが、『紅樓夢』以後はみられ

ない。

4. 現代中国語で最もよく用いられる「便利である」という意味は『金瓶梅』以後用いられるようになった。

5. 「用便する」という意味は『紅樓夢』以後用いられるようになった。但し、古今小説等に見られることから明代にはすでに用いられていたとみられる。

6. “方便”の意味は『水滸』から『金瓶梅』『紅樓夢』の変遷期をへて現代中国語ではまったく違ったものに変化した。

	體面	照顧	辦法	機會	快樂	自便	安全	利益	舒適	便利	使便利	舒服	適宜	有錢	拉屎
水滸	○	○	○	○											
金瓶	○	○	○	○		○	○	○		○		○			
紅樓	○	○			○				○	○	○				○
兒女		○			○					○					○
現漢										○	○		○	○	○

資料

許政揚校注『古今小説』人民文學出版社 1981年

鄭振鐸校本『水滸全傳』人民文學出版社 1954年

戴鴻森校點『金瓶梅詞話』中國圖書刊行社 1986年

中國藝術研究院紅樓夢研究所校注『紅樓夢』人民文學出版社 1992定

亞東本『兒女英雄傳』新文豐出版股份有限公司 民國66定

胡竹安『水滸詞典』漢語大詞典出版社 1989年

白維國『金瓶梅詞典』新華書店1991年

周定一主編『紅樓夢語言詞典』商務印書館 1995年

高文達主編『近代漢語詞典』知識出版社 1992年

許少峰主編『近代漢語詞典』團結出版社 1997年

羅竹風主編『漢語大詞典』上海辭書出版社 1986年

語言研究所『現代漢語詞典』商務印書館 2005年

香坂順一『《水滸》語彙と現代語』光生館 1995年

(2005年9月24日受理)